

平成二十六年 市長と語る会 開催報告

高山市の文化振興を積極的に進めるため、九月十八日に市役所において「市長と語る会」を開催しました。市から國島市長をはじめ、中村教育長、幹部職員六名、文化協会からは役員十一名が参加し、活発に意見を交換しました。主な議題は、「新文化会館の建設」、市長の重要政策の一つ「文化振興」について、「文化伝承館の整備」の三点でした。以下に、その概略を報告します。

『新文化会館の建設』(協会) 建設後三十二年が経過した現在の施設は、老朽化が顕著となりつつあり、利用者ニーズの変化に答えられなくなっている。利用者アンケートにおいても、七十三パー

セントが新文化会館の建築を望んでいる。ニーズに答えられる新たな文化会館建設について、駅周辺開発事業に伴う第八次総合計画への組み込みの進捗はどうか。

(市) 時期は未定だが、新しく建て直す方向で考えていきたい。第八次総合計画には、高山市民文化会館等の文化施設整備として、具体的に考えていきたい。

(協会) 市民に新文化会館建設意識を高めてもらえるよう、活動を行う。現在、各地の文化施設を見学し、学識経験者を講師に招いての研修を重ねている。

『市長の重要政策の一つ「文化振興」について』(協会) 市長が重要政策の一

つに「文化振興」を掲げ、市民と一体で取り組む決意を述べられ、当協会としても意を強くしている。そこで「文化振興」の具体的施策について聞きたい。

つに「文化振興」を掲げ、市民と一体で取り組む決意を述べられ、当協会としても意を強くしている。そこで「文化振興」の具体的施策について聞きたい。

(市) 身の回りの文化に触れ、興味を持ってもらえる「飛騨高山文化芸術祭」等の機会を増やし、提供していきたい。また、指導者の人材育成もしていきたい。

(市) 植樹に関しては、桜の名所として古くから親しまれてきた場所でもあり、今後一緒に考えていきたい。倉庫については、周りの景観への配慮や規制に適合する必要がある、具体的な内容については今後協議させていただきたい。



その他、当協会が寄贈した資料の帰属についての話し合いなどを行いました。

希望者に無料配布「飛騨文藝」

第三十八回飛騨文芸祭作品集「飛騨文藝」を、高山市民文化会館、高山市図書館「煥章館」にて無料配布中です。今年、史上初の高校生ダブル受賞(文芸祭賞、青竜大賞)という快挙があり、また青竜賞を受賞した飛騨神岡高

校の生徒が、第八回全日本学生・ジュニア短歌大会において最高賞である文部科学大臣賞を受賞するなど、飛騨の若人の文芸レベルの高さがうかがえる内容となっています。なお、配布はなくなり次第終了します。

「風目(目)」

イタリアの太陽の下で、海を見ながらワインで昼メシを食っている人と、北ドイツの森の奥で散歩している人とは、そのイメージがだいぶ違う。日照時間と国民性は、大いに関係があると思う。

国民性とはまで言わなくても、同じ所でも晴れの日と雨の日では、だいぶ心持ちが変わってくる。どこに居ても日当たりが良いと、心も明るく身も軽くなる。

こないだ祭りが終わったばかりだと思っていたら、もう師走だ。日が短くなっていく中で、これからクリスマスだ歳取りだと気ぜわしくなってくる。

長い間、飛騨の冬は北ドイツの森のように寒く暗く重いものだった。そんな中で、先人達は花モチに明るさを見い出す知恵があった。昔の花モチは、みな白だった。

今年もいろんな事があった。御岳の爆発には驚いた。いつ何があるか分からないと思いが知らされた。

孫たちが正月に来る。小坊主たちが狭い家を明るくしてくる。しかし、また皿や茶碗がいくつ割れる。

(ガンモン毛筆)